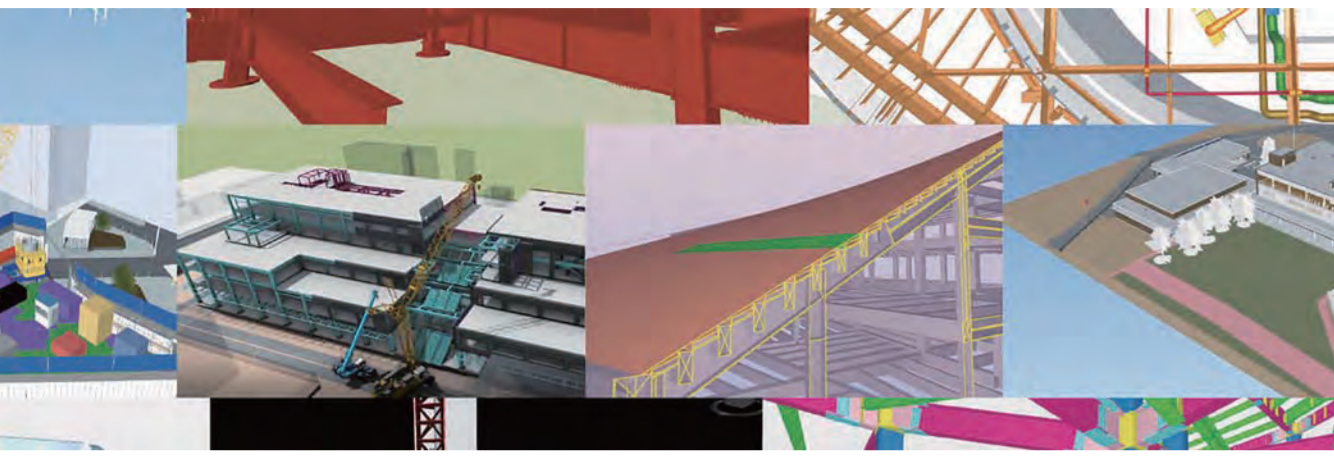


# 日刊建設通信新聞社ウェブセミナー「施工BIMのインパクト2023」

# BIMからDXへの道筋を提示

日刊建設通信新聞社は5日、ウェブセミナー「施工BIMのインパクト2023～現場デジタル化の道筋～」を開催した。ゼネコンによる施工段階のBIM活用が着実に進展する中、最前線の現場では協力会社とのデータ連携効果が目立ち始めている。セミナーでは、日本建設業連合会建築生産委員会BIM部会会長の曾根巨充氏と国土交通省官庁営繕部整備課施設評価室室長の滝本悦郎氏が基調講演したほか、最前線のプロジェクト事例として、安藤ハザマとSUGIKOのデータ連携、東亜建設工業と野原グループの活用、高砂熱学工業、弘電社、新菱冷熱工業、ダイダクから設備BIM研究連絡会や現場連携の取り組み、東芝エレベータの設計デジタル化を紹介し、建設現場のデジタル化の進むべき方向性とBIMからDX（デジタルトランスフォーメーション）につながる道筋を提示した。セミナーは約1,500人が聴講した。日建連が後援し、オートデスクと大家商工会が協賛した。本セミナーの内容は、きょう11日からオンデマンド配信する。

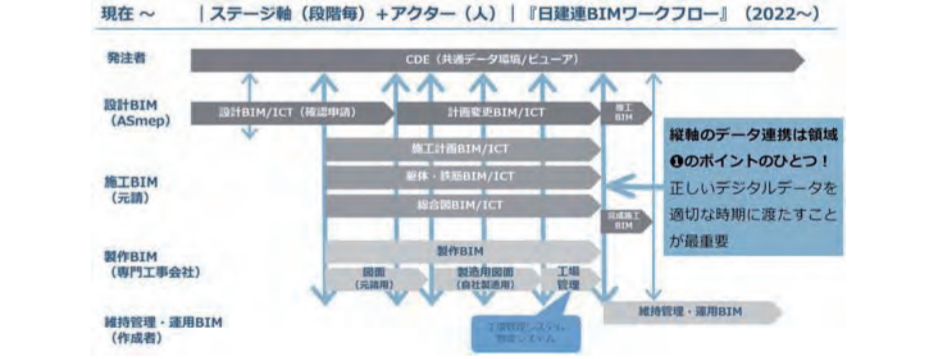
当社ホームページで本日より1時から28日午後1時までセミナーのオンデマンド配信を開始します。視聴は無料ですが、事前登録が必要です。HPから登録ください。既にセミナーに登録した方はオンデマンド配信と同時に視聴URLをご連絡するため、再登録の必要はありません。



## 「終わらせ方」が新たなテーマに

日本建設業連合会 建築生産委員会BIM部会会長 曾根 巨充氏

国土交通省の建築BIM推進会議や日本建設業連合会がBIM活用を推進する中で、設計と施工の連携が重要視されています。設計と施工の連携を促進するためには、設計と施工の両者が互いの課題や用語の定義などを「目的共有」する必要があると述べています。設計と施工の連携を促進するためには、設計と施工の両者が互いの課題や用語の定義などを「目的共有」する必要があると述べています。



設計と施工の連携を促進するためには、設計と施工の両者が互いの課題や用語の定義などを「目的共有」する必要があると述べています。設計と施工の連携を促進するためには、設計と施工の両者が互いの課題や用語の定義などを「目的共有」する必要があると述べています。

## 設計、施工にEIRを原則適用

国土交通省の官庁営繕部整備課施設評価室室長 滝本悦郎氏

国土交通省の官庁営繕部整備課施設評価室室長 滝本悦郎氏は、設計と施工の両者にEIR（環境影響評価）を原則適用することを提言しました。EIRは、設計と施工の両者に適用することで、環境への影響を事前に評価し、対策を講ずることができると述べています。

設計と施工の両者にEIR（環境影響評価）を原則適用することを提言しました。EIRは、設計と施工の両者に適用することで、環境への影響を事前に評価し、対策を講ずることができると述べています。

## 会社の垣根越え支援体制構築

安藤ハザマ 建設本部生産設計部BIMグループ 岩倉 巧氏

安藤ハザマの建設本部生産設計部BIMグループの岩倉巧氏は、会社の垣根を越えて支援体制を構築することを提言しました。設計と施工の両者が互いの課題や用語の定義などを「目的共有」することで、連携を促進できると述べています。

設計と施工の両者が互いの課題や用語の定義などを「目的共有」することで、連携を促進できると述べています。

## 建具の生産工程45%削減

東亜建設工業 経営企画本部DX推進部長兼DX企画課長 野原グループ 建設DX推進統括部建設DX3部部長 石田 渉氏

東亜建設工業の経営企画本部DX推進部長兼DX企画課長 野原グループの建設DX推進統括部建設DX3部部長 石田渉氏は、建具の生産工程を45%削減することを提言しました。3Dモデルを活用することで、生産工程を効率化できると述べています。

3Dモデルを活用することで、生産工程を効率化できると述べています。

## 一覧表活用し資材手配15%削減

高砂熱学工業 DX戦略統括部BIM推進部担当課長 遠藤 裕司氏

高砂熱学工業のDX戦略統括部BIM推進部担当課長 遠藤裕司氏は、一覧表を活用して資材の手配を15%削減することを提言しました。一覧表を活用することで、資材の手配を効率化できると述べています。

一覧表を活用することで、資材の手配を効率化できると述べています。

## BIMの推進からDXに向けた取組み

東芝エレベータ 情報戦略システム部デジタルトランスフォーメーション推進担当マネージャー 平手 和夫氏

東芝エレベータの情報戦略システム部デジタルトランスフォーメーション推進担当マネージャー 平手和夫氏は、BIMの推進からDXに向けた取組みについて述べています。BIMを活用することで、DXの推進を促進できると述べています。

BIMを活用することで、DXの推進を促進できると述べています。

